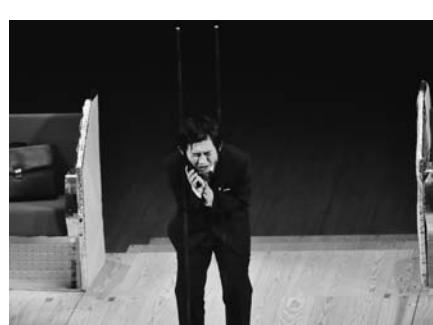


演劇創造

復刊

第130号

(第49巻 第1号)



— 発行 全国高等学校演劇協議会 —

〒270-0025 千葉県松戸市中和倉590 千葉県立松戸高等学校 TEL(047)341-1288 FAX(047)346-4002

事務局長 阿部順 編集加藤悟

60回いばらき大会によせて

会長 揚 村 洋一郎



第60回全国高等学校演劇大会は、第38回全国高等学校総合文化祭の主催県である茨城県において、ここ、ひたちなか市文化会館大ホールを会場に7月28・29・30日の3日間にわたり開催されます。全国8ブロックより推薦を受けた11校に開催県の茨城からの1校を加えた12校の作品が上演されます。

全国高等学校総合文化祭は、文化部のインターハイとも呼ばれ、演劇をはじめ高等学校文化連盟のすべての部門における日頃の部活動の成果が披露される場です。

本大会も2万人を超える高校生の参加が予定されています。「創造の花を咲かせよ聳える筑波嶺 吹きぬける文化の風」という「いばらき総文祭」のテーマのもと、実行委員会を中心に総力を上げて、高校生の文化の祭典が繰り広げられます。演劇部門としては60年という節目の年でもあり、出場校はもとより、高演協としても新たな意気込みをもってこの大会を迎えております。

演劇部の生徒にとっては舞台上に新しい世界を創りだすことが大きな喜びです。単に上演するだけの喜びにとどまらず、笑いや涙とともに、より質の高い感動を観客の皆さんと共有することを求めていきます。のために、自分たちの創造する演劇の質的向上を求めて、身体訓練に始まり、脚本制作・研究、演出・演技の工夫、舞台装置の作成……といった演劇創造に努力を惜しません。そういった日常活動の積み重ねによって生まれた舞台が、今まさに花開こうとしております。

彼らの真摯な活動を支え、応援していくことは我々の使命でだと考えています。全国大会の名称に当初より「指導者講習会」を掲げているのも、高演協の姿勢の表れです。指導者の養成は高校演劇の大きな課題です。演劇部の顧問になったのはやむを得ないが、演劇に関する知識も経験もなく、どのように指導したらよいか途方に暮れているという話をよく耳にします。本大会では、様々な講習会・研修会を開催いたします。本大会も60年を越え、顧問の先生の交代もどんどん進んでいるものと思います。若手の先生方も多く参加されていることでしょう。そのような先生方の中から演劇を志し、意欲のある人たちを増やしていくのも高演協の重要な役割です。毎年「指導者講習会」に参加された先生方から、今後の演劇部の指導に大いに参考になったとのご意見を頂いております。かく言う私も素人です。共に勉強して参りましょう。

高演協の運営にあたっては、地区大会を経て都道府県の中央大会への出場が決まり、ブロック大会を経て全国大会に臨むという、コンクール形式をもって各大会が運営されています。演劇という表現形態のため、その審査には地区大会から専門家が当たることになります。そのため、演出・演技、装置、音響・照明といった総合的な見地に立って、専門的な判断や講評を仰ぐことができます。皆さんのご覧になった演劇について、専門的な立場からご指導・助言をいただけるということが、演劇作りの質的向上に大いなるヒントを与えてくれます。

従来から各都道府県の高等学校演劇協議会を中心に様々な演劇活動を展開して参りました。本協議会が発行する「活動報告集」には、都道府県大会の報告と活動報告がまとめられています。また、昨年度の長崎大会における生徒講評委員会講評文および、第8回春季全国高等学校演劇研究大会の感想・劇評が掲載しております。こちらの方も目をお通し頂ければ幸いです。

さあ、第60回全国高等学校演劇大会が開催されます。60年の節目として、大変意義のある大会であることから、各ブロックから推薦された12校の意気込みを強く感じます。本大会を通して生徒及び関係者の方々との交流が深まり、文字通り演劇創造としての舞台が築かれようとしています。これまで高校演劇に取り組まれてこられたすべての方々のご尽力に思いをはせながら本大会に参加致します。

結びに、何年も前から準備にご苦労をいただいている開催県（茨城県）の皆様に厚くお礼を申し上げます。

(全国高等学校演劇協議会会長 東海大学仰星高等学校中等部・高等学校校長)

茨城へようこそ～なめないでください、茨城～

前島 宏朗



全国各地からお越し頂いた高校演劇ファンそして関係者の皆様、「自然と科学の地、茨城」へようこそ！そして出場校の皆様、全国大会出場、誠におめでとうございます。

この茨城という地名は一説によると常陸国風土記に記述のある「茨（いばら）の城を築いて賊軍を防いだ」事に由来するそうです。そして「いばらぎ」ではなく「いばらき」と読み、地元の人たちはこの読み方に拘る人が多く、テレビやラジオでアナウンサーが「いばらぎ」と読むと、「このアナウンサーは失格だ」と思ってしまいます。

そして本県の特徴は「際立った特徴がない」のが大きな特徴で、これは決して特徴がないわけではなく、海、山、温泉、湖等の自然、そして水戸、鹿島を代表とする史跡、食べ物、さらには科学の町、つくばと何でも揃っているのでこれといった特徴が挙げられないということだと思います。しかし近年はそもそも言つていられなくなり、ここ数年、「なめんなよ、茨城」（このフレーズ、品がないということで議会で問題になったこともあります）というキャッチコピーで「印象の薄い県」の巻き返しを図っています。

さてそんな「自然豊かで日本の頭脳が集まった茨城」で初めての「全国大会」が開催されることは我々、高校演劇関係者の悲願でもありました。私事で恐縮ですが、私が演劇部の顧問になった頃は県の組織さえなく、県大会も開催できる状態ではなかったのが現状でした。そしてやっと組織が確立され、他の都道府県にやっと追いついたという点では「高校演劇後進県」と言わざるを得ません。本県の「高校演劇のレベル」もまた、全国大会出場経験は1回にとどまっており、その意味でもまだまだですが、この大会は茨城県なりの全国に負けない大会にしようと、生徒諸君と関係教師が一体となって準備を進めて参りました。昨年の素晴らしい長崎大会を観察し、その運営や生徒達の笑顔あふれる態度などを目の当たりにして不安も多くありますが、精一杯の「おもてなし」でお迎えし、必ずや成功させたいと思っています。また出場校におかれても、この日のために並々ならぬ努力と準備を重ね、素晴らしい演劇を披露してくれるものと今から胸の高鳴りを感じています。どうぞ感動的な舞台で客席を圧倒して下さい！

最後にこの大会にご支援とご協力をいたいたいたすべての皆様に感謝申しあげ、大会会長の挨拶といたします。

第38回全国高等学校総合文化祭演劇専門部会長（茨城県立竜ヶ崎南高等学校長）

60年の輝きを茨城で

関 勝一



茨城県高校演劇連盟は、ここ数年、加盟校が増え続けています。今年は初めて60校を越えることになりました。これは全国大会開催と深く関係していると思います。演劇部に入部することで全国大会運営に携わり、全国の高校生達をお迎えすることができる、この魅力が多くの生徒達を集め、活動を活性化させているように思います。実際、茨城県の生徒実行委員は450名を超え、これ以上の増員を断っている状態です。会場の客席数の関係で、実行委員は上演を見ることができない、と説明しても一向に減る気配がありません。これは運営側としては頭を悩ます「うれしい問題」でもあります。実行委員の動きが鈍重にならないよう、上演校や観客に迷惑をかけないよう工夫していくなくてはなりません。もちろん、参加する実行委員が運営に携わって成長できるようにもしなければなりません。そして何より大会全体を大成功に導いていかなければなりません。生徒・顧問合わせ500人以上が一致団結して乗り切っていくつもりです。

この茨城大会が、60回目の全国大会になります。60年の歴史、その重みを胸に、またその歴史に加わることができることができる喜びをかみしめています。昨年長崎から高演協旗を引き継ぎ、その伝統や輝きをひしひしと感じました。そして、これまでの全国大会。上演はもとより、会場の熱気や運営委員の爽やかさ、明るさにどれほど元気づけられたことか。高校演劇を支えてくださる全ての方に感謝の気持ちを忘れず、今年は茨城県が皆を元気づけていきたいと思っています。

（第38回全国高等学校総合文化祭演劇部会代表委員）

全国大会 出場校一覧

学校名	作者名	作品名
岐阜県立池田高等学校	西野 勇仁	麒麟児 -killing G-
青森県立青森中央高等学校	畠澤 聖悟	翔べ！原子力ロボむつ
久留米大学附設高等学校(福岡県)	附設高校演劇部・岡崎賢一郎	女子高生
長野県松川高等学校	黒瀬 貴之／作 松川高校演劇部 潤色	ちいさいたね
島根県立出雲高等学校	伊藤 靖之	見上げてごらん夜の☆を
愛媛県立松山東高等学校	越智 優	夕暮れに子犬を拾う
香川県立観音寺第一高等学校	久保 静江+観一演劇部	問題の無い私たち
山梨県立甲府南高等学校	中村 勉	マナちゃんの真夜中の約束・イン・ブルー
北海道大麻高等学校	山崎 公博／作 潤色	教室裁判
茨城県立水海道第一高等学校	中島 梓織	お好みにけーしょん
群馬県立桐生高等学校	金井 達／作 桐生高校演劇部 潤色	通勤電車のドア越しに
滝川第二高等学校(兵庫県)	いぐりんとその仲間達	志望理由書

講習会講師一覧

第1分科会 「演技に関するワークショップ」 越光 照文 氏

第2分科会 「最近の演劇状況について」 飯島 早苗 氏・今村 修 氏

第3分科会 「舞台美術について」 土屋 茂昭 氏

第4分科会 「部活動について」 後藤 幸子 氏・黄地 伸 氏・村上 志保 氏

第5分科会 「生徒講評委員会評会」

大会日程表

第60回 全国高等学校演劇大会(茨城大会) 全国高等学校演劇指導者講習会
第38回全国高等学校総合文化祭演劇部門

期間 2014(平成26)年7月25日～7月30日 会場 ひたちなか市文化会館

	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	
8:00							8:00
8:30				開館	開館	開館	8:30
	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	
9:00	開館	開館	開館				9:00
9:30	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	開場 8:45	開場 9:00	開場 9:00	9:30
10:00		リハ②準備	リハ⑧準備	開会式 9:15～9:40	上演6 松山東『夕暮れに子犬を拾つ』9:30～10:30	上演11 桐生『通勤電車のドア越しに』9:30～10:30	10:00
10:30	舞台総合仕込み		リハーサル② 池田(中部日本・岐阜)9:30～10:50	準備	四県引き継ぎ会	生徒講評委員会	10:30
11:00	実行委員会(小ホール)	リハ③準備	リハ⑨準備	上演1 池田『麒麟児-killing G-』10:00～11:00	休憩	休憩	11:00
11:30		リハーサル③ 青森中央(東北・青森)11:00～12:20	リハーサル⑨ 甲府南(関東・山梨)11:00～12:20	休憩	上演7 観音寺第一『問題の無い私たち』11:00～12:00	上演12 滝川第二『志望理由書』11:00～12:00	11:30
12:00				上演2 青森中央『翔べ！原子力ロボむつ』11:30～12:30			12:00
12:30	昼食休憩		仕込み調整 昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	12:30
13:00		リハ④準備	リハ⑩準備	昼食休憩		移動	13:00
13:30	舞台総合仕込み 開会式リハ準備	12:50～14:00	リハーサル④ 久留米大附設(九州・福岡)13:00～14:20	上演3 久留米大附設『女子高生』13:30～14:30	上演8 甲府南『マナちゃんの真夜中の約束・イン・ブルー』13:00～14:00		13:30
14:00			リハーサル⑩ 大麻(北海道)13:00～14:20	休憩			14:00
14:30	開会式 リハーサル	14:00～14:50	リハ⑤準備	リハ⑪準備	上演9 大麻『教室裁判』14:30～15:30	講習会(5分科会) 13:30～15:00	14:30
15:00		リハ①準備	リハーサル⑤ 松川(関東・長野)14:30～15:50	リハーサル⑪ 桐生(関東・群馬)14:30～15:50	休憩	生徒講評委員会	15:00
15:30	リハーサル 水海道第一(開催県・茨城)	15:00～16:20	リハ⑥準備	リハ⑫準備	上演4 松川『ちいさいたね』15:00～16:00	移動・休憩	15:30
16:00			仕込み調整	リハーサル⑫ 滝川第二(近畿・兵庫)16:00～17:20	休憩		16:00
16:30	交流会リハ準備		リハ⑦準備	リハーサル⑬ 出雲(中国・島根)16:30～17:50	上演5 出雲『見上げてごらん夜の☆を』16:30～17:30	講評(審査員) (生徒講評委員) 15:10～17:00	16:30
17:00			リハ⑧準備	生徒交流会準備	休憩		17:00
17:30	生徒交流会 リハーサル	16:30～18:30	リハ⑨準備	生徒交流会	休憩	閉会式 17:10～17:40	17:30
18:00			リハ⑩準備		第60回大会記念行事 17:20～17:40	生徒講評委員会	18:00
18:30		リハーサル⑦ 松山東(四国・愛媛)18:00～19:20	リハ⑪準備	顧問総会	休憩	優秀校 東京公演 打ち合わせ	18:30
19:00	役員打合		リハ⑫準備	審査員打合会	閉会式 リハーサル 18:00～18:50	審査員打合会②	19:00
19:30			リハ⑬準備	仕込み	仕込み		19:30
20:00			リハ⑭準備	顧問研修会	仕込み		20:00
20:30	仕込み		リハ⑮準備		会場撤収		20:30
21:00			リハ⑯準備				21:00

特集

全国大会出場校による

① ゴキブリを殺せるやつは人気者。殺せないやつは落ちこぼれ！

舞台は、
ゴキブリを追放した町の
中央に位置する私立カブトムシ高校！
そこはゴキブリ殺しで序列が決まる世界！
生徒達は今日も“G”を殺す！

上演一本目、池田高校演劇部の
『麒麟児 -killing G-』
私たちの思いを精一杯舞台にぶつけます！
ぜひ、ご覧下さい。

(池田高校演劇部 部員一同)

岐阜・池田高等学校



⑤ 今見えているものは、カコだ！

日本はせまい。地球は丸い。
どんな場所でも見上げると、宇宙がある。
宇宙は広い。広がり続ける。
そんなことさえ人は忘れてしまっているかもしれない。
僕らは地球上のすべての人に言いたい。
『見上げてごらん夜の☆を』
見上げたその先に見えるものは…

(出雲高校演劇部)

島根・出雲高等学校



⑨ それでは、開廷します。

「この6人でちょっと考えてみる？」
放課後の教室、くじ引きで決まったメンバーで先生を待ちながら裁判ごっこが始まった。
判決はいかに！
麻高演劇部全員で一丸となってつくった「教室裁判」見て下さった方に想いが伝われば幸いです。
みなさまと、きれいな夕焼けが見られますように。

(大麻高校演劇部一同)

北海道・大麻高等学校



② ヤバッチモノの行く末は？

ヤバッチモノは津軽弁で「汚い物」という意味です。

ヤバッチモノは人間が2秒で死に至る強烈なアレを放射し続けます。

ヤバッチモノは安全になるまでに10万年かかります。

「翔べ！原子力ロボむつ」はむつという名前の原子力で動くロボットが翔ぶか翔ばないかという物語です。そのまんまで（笑）。でもなにか、皆さんが考えるきっかけになれれば幸いです。

(盛愛(部長))

青森・青森中央高校



⑥ 子犬と一緒にがんばります。

ただの公園、でも誰かにどうっては特別な場所。テストが終わった時や部活の大会で勝ったとき負けた時、ちょっと特別なことがあった時に立ち寄る、ここはそんな場所なんです。キラキラ輝く日々をギュギュっとめこんだ玉手箱、それが『夕暮れに子犬を拾う』……のはずなんだけど。

私たち、舞台でキラキラ輝きたいです！ いざ、開幕！

(佐伯響子・藤田真悠子)

愛媛・松山東高等学校



⑩ 「お好みニケーション」とは？

鉄板囲んでわいわいしてみんな仲良くなりましょう！

それが飲みニケーションならぬ

「お好みにけ～しょん」!!

鉄板の上に広がるのは、色々なことが混ざり合った「何でもないような毎日」—— 海一演劇部はこの夏の青春を鉄板と舞台に捧げます。応援よろしくお願ひします。

(中島梓織)

茨城・水海道第一高等学校



ひたちなか市文化会館に全国各ブロックから推薦をされた12校がそろいました。今号では、出場校から届いた「舞台にこめるメッセージ」を特集で届けさせていただきます。短いことばの中にこめられた各校の熱い思いを感じていただければと思います。また、舞台写真からのような芝居が繰り広げられるか雰囲気を感じてもらえばと思います。

最後になりますが、今回の特集のために出場校のみなさんには、貴重な時間をさいていただきました。ご協力ありがとうございました。はつらつとした舞台で観客を魅了していただければと思います。

「舞台にこめるメッセージ」

③ 男ってさ、……なんだろね

男子校から変わり、共学化が始まった本校。「女子か～。どんな感じなんだろう」と、男たちだけで騒いでいたところ、演劇部に女子が入ってきたのが去年の春。「男とは、女とは」について真っ正面からぶつかった
「女子高生」
男くさい60分をお楽しみください。

(西田 心(男))



福岡・久留米大学附設高等学校

⑦ 「高校演劇」って何ですか

『公子先輩、きびしなったよなー』
そう、演劇部部長小山公子は最近イライラしている。
3ヶ月後に迫った県大会でどうしても勝ちたいのに問題が山積みなのだ。
決まらない台本、真剣味の無い部員、すぐ私語をする後輩たち、
そしてジョジョ……ん? ジョジョ?
『頼むきん、どうでもええ話で盛り上がりんとって。』

(演劇部一同)



香川・観音寺第一高等学校

⑪ 「やだ、何このおじさん達、面白いわ…… by貴婦人」

僕たちが見ている景色はほんとうの景色なのか。
僕たちが目指す夢はほんとうの夢なのか。
僕たちは今ほんとうの生を生きられているだろうか。
まぁ『通勤電車のドア越しに』見ている分には分からないんですけどねえ…………。
あ、この劇コメディですので楽しんで見てくださいね。
ちなみに貴婦人は登場しません♥＼(^o^)／

(前原 拓真)



群馬・桐生高等学校

④ 一帰ってきた… 帰ってきたんじゃ… —

全てを失い、生きる希望をなくした男がたどり着いたのは、あの日過ごした土手だった。そこに当時、一緒に暮らした3人の仲間が現われて…。

全国大会の舞台で「ちいさいたね」が上演できることを幸せに思います。どうぞ最後までご覧ください。

(伊波 瑞奈)



長野・松川高等学校

⑧ マナちゃんを好きになってください

『マナちゃんの真夜中の約束・イン・ブルー』を上演する甲府南高校です。マナちゃん役は二年の那須愛美で、マナちゃんですが、マナちゃんでない。しかしマナちゃんでもあり、こうなったらマナちゃんのことであると言ってしまおうかと思います。マナちゃんとはマナちゃんのこと、わたしのこと。

(那須 愛美)



山梨・甲府南高等学校

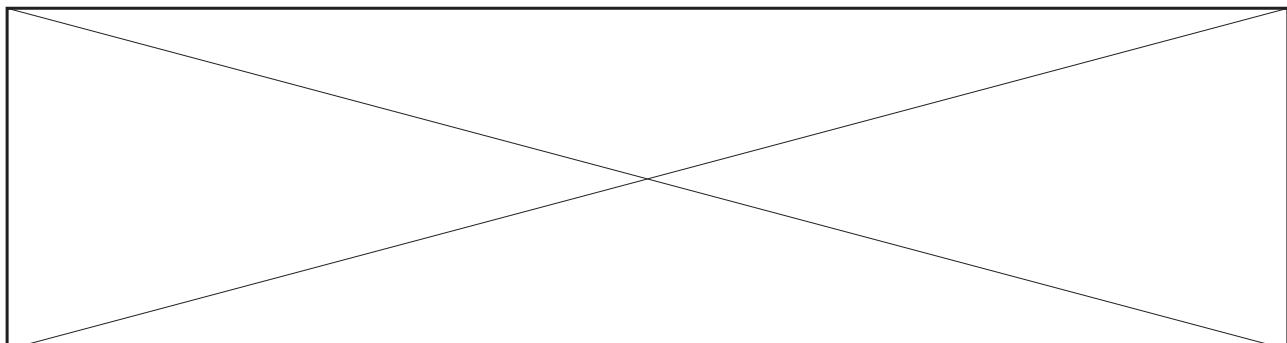
⑫ 『観客に愛が足らんのよ！』

この言葉は、顧問の岡本壽美子先生の言葉です。
私達滝川第二演劇部は、多くの人に支えられてここまで来ることが出来ました。日頃からお世話になっている方やこれからお会いする全ての人達に感謝の気持ちと大きな愛（…のようなものを！）伝えていきます！
お客様と共に成長した「志望理由書」を茨城の地で公演する喜びを噛みしめて、本番に挑みます！

(高橋 空)



兵庫・滝川第二高等学校



第八回春季全国高等学校演劇研究大会 (フェスティバル2014)

昨年度の春季研究大会は2014年3月28日(金)～30日(日)に岩手県北上市の北上市交流文化センターさくらホール中ホールで開催されました。東日本大震災で大きな被害を受けた三県における春季研究大会の開催は、上演校・大会を開催してくださった地域の高校生や顧問の先生方、観客として参加された皆さま・全国高演協それぞれにとって、大きな意義を持ったものであったと考えております。

未曾有の大震災の直後、大会実施について多くの議論が重ねられた中、「上演を目指して懸命に汗を流してきた生徒たちの発表の場を閉ざしてはならない。」という基本姿勢が確認されて、10校中6校の上演で開催した北海道伊達市の第五回大会。震災のために予定されていた会場も大きな被害を受けましたが、「全国から高校生が集まる大会を実施するために、被災した会場を最優先に補修しよう。」という仙台市の関係者や県の顧問の先生方の熱い思いで開催された宮城県仙台市の第六回大会。2011年8月の「第57回全国高等学校演劇研究大会・同指導者講習会」は、予定されていた福島県福島市では実施できず、香川県丸龜市に会場を移して行われましたが、夏の大会を長年準備されてきた先生方のもとで実施することのできた福島県いわき市の第七回大会。そして被害の大きかった東北三県の締めくくりとして、開催県岩手県を含め、第五回大会に出場予定だったが様々な事情で上演できなかった4校のうち3校の顧問も集い、さくらホール開館10周年記念事業として、参加者のべ1610人を迎えて、今大会は実施されました。

第八回春季全国高等学校演劇研究大会（フェスティバル2014）上演校一覧

市立函館高等学校	おとめのゆめ	市立函館高等学校演劇部 作
宮城県名取北高等学校	鼻と糸トンボ	安保 健+名北演劇部 作
盛岡市立高等学校	ニッポンSFジェネレーション	松田 隆志 作
長野県丸子修学館高等学校	明日があるさ	井上 光晴 原作 羽場小百合+丸子修学館演劇部 脚色
静岡県立富士高等学校	寿歌	北村 想 作
愛知県立刈谷東高等学校	笑ってよ ゲロ子ちゃん	兵頭 友彦 作
兵庫県立神戸高等学校	ソーニャ姫さん	福田 成樹 作
岡山県立岡山南高等学校	生徒会とわらしとはじまりの夏	岡山南高校演劇部 作
徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校	夜帰	川瀬 太郎 原案 村端 賢志 作
大分県立大分豊府高等学校	きっともきっと はなれられない	中原久典+大分豊府高校演劇部 作

作品の詳細と講評は「活動報告集」に譲りますが、今大会も、震災の影響の感じられる、生きていくことに真剣に立ち向かっている高校生の感性が發揮された素晴らしい舞台でした。特に、被災地以外の地域で被災された方々の思いに寄り添うことを目指した岡山南高校の作品は、被災地で上演することにより、上演校の生徒たちにとってもより深い意味を持ったのではないかと思います。地元岩手県立北上翔南高校鬼剣舞部の演奏により始まった大会は、舞台上に上演校の生徒と運営スタッフが上がる感動的な閉会式で、質の高い上演作品とスムーズな運営により、気持ちの良い大会として、無事に閉じられました。

今年度は第九回を香川県高松市で開催します。第十回については、すでに開催予定地に打診しています。その後の開催地についてもいくつかの地域から、問い合わせが来ており、春季研究大会も、高演協の事業として、徐々に定着しています。



市立函館高等学校



宮城県名取北高等学校



盛岡市立高等学校



長野県丸子修学館高等学校



静岡県立富士高等学校



愛知県立刈谷東高等学校



兵庫県立神戸高等学校



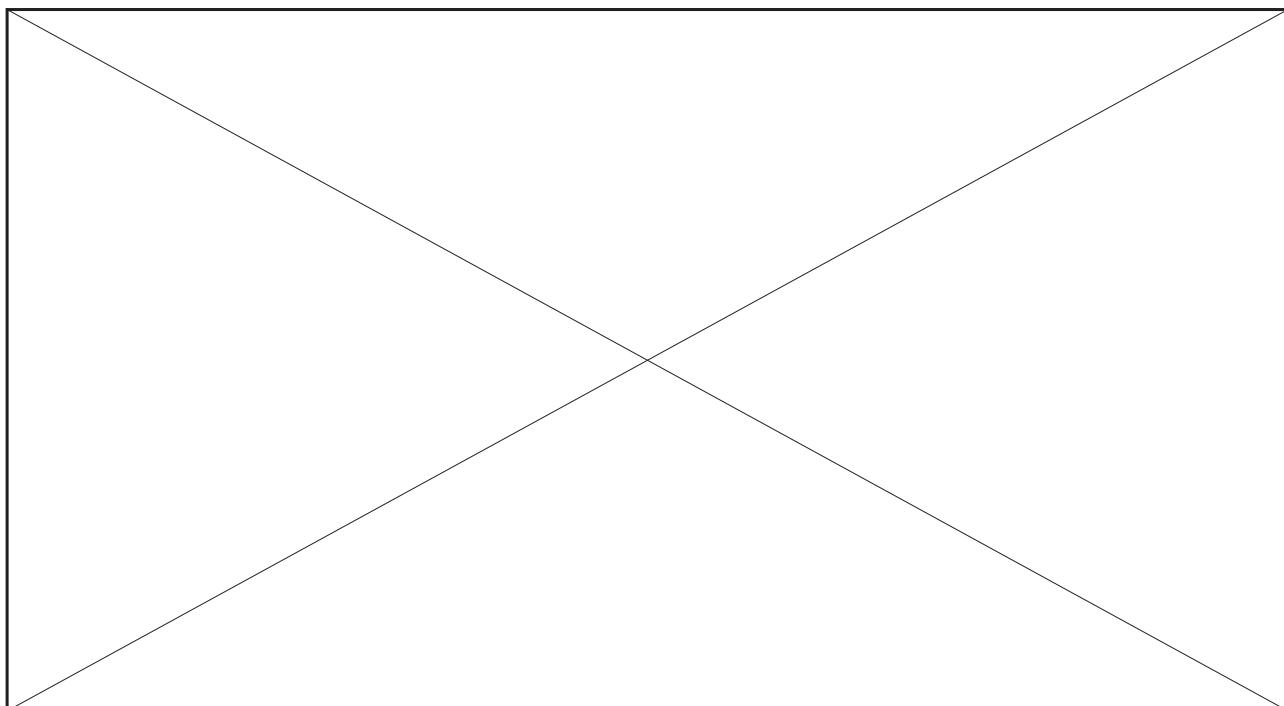
岡山県立岡山南高等学校



徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校



大分県立大分豊府高等学校



都道府県だより

福島県

「最後は金目」ではない
高校演劇。「最後は…」
佐藤 茂紀

東日本大震災から3年半。しかし、15万人を超える避難者、コミュニティの崩壊、増え続ける震災関連死、進まぬ除染、被爆への不安などなど、むしろ複雑化、悪化の方向に向かっています。時間が経てば経つほどに、福島第1原発事故の作り出した闇が拡がり続けているように思えてなりません。

「3.11以降」、福島の高校演劇が描き続けたもの多くは現場からの叫びであったり、報告であったり、SOSであったりと直接的なメッセージがほとんどでした。しかし2013年変化し始めます。震災・原発事故を直接的に描く作品が減ってきたのです。それは日常を取り戻した証明では無いようです。今の福島を描き語ろうとすることが困難となった現状を反映しているのです。つまり、「糸」「悲しみ」「怒り」を描き、真っ向から問題と向き合ってきた高校生達、そして顧問教師達はまた、それらを描いて「納得」「了解」ではなくなってきたことに気づくのです。そして現実の人間と社会はより残酷であることを思い知るのです。ゆえに演劇をもって今を描こうとするためには、より演劇であろうとしたのです。演劇としてしっかりと嘘を描き、その先に、またはその遠景に真実を描き出そうともがき始めたのです。昨年の福島県大会は出場校15校のうち10校が創作作品、地区大会においても会津地区などは全出場校が創作作品でした。今を描くためには新しく創り出して行く必要と、演劇としての熟成にも迫られてもいるのです。

加えて、高校演劇が県境を積極的に越え始めたことも最近の特徴であるとも言えます。震災以前も、全国的な活動を行ってきたいわき総合高校はもとより、大沼高校、あさか開成高校、光南高校などそれが東京、横浜、千葉などへの公演旅行を行っています。また、相馬高校放送部が体験をもとにした演劇作品を持って各地を廻っています。現在の「ヒロシマは日本にあらず」、「フクシマは日本にあらず」という風潮（被曝の歴史・体験・事実の封殺傾向）に対して、福島県内で声高に言ってるだけではダメではないか。日本人が全体として今を共有していかなくちゃ。という想いが彼らに県境を越えさせたのではないかと思います。

今を伝えるツールとして選ばれ、熟成を求め進化し、県を越えて旅をし、多くの人とのつながりを求めた福島の高校演劇。しかしながらそれは走り出したばかりです。これからも「3.11以降の福島」「3.11以降の日本」「3.11以降の世界」と向き合い続けることでしょう。震災・原発事故の影響を振り払い、あえてそれらを描かない作品創りをしたとしても、その点で既に向き合っているのです。向き合い続けること、それはきっとつらく長い道程かもしれません。しかし、演劇を通して真実と希望を見いだそうという道程でもあるのだとも確信しています。なにしろ震災後に福島で生まれた全ての作品に内包される共通のテーマは、「人と人のつながり」であるように思えるからです。そしてどこまでも、人間同士のぶつかり合いの中にこそ生まれるであろう希望を描こうとするのです。打算に走りやすい大人である顧問教師も共に創る高校演劇ですが、純粹に真っ直ぐに描き続ける高校演劇の姿がそこにあります。

最近、某大臣が「最後は金目」と発言されました。かつていじめをテーマに創られた多くの作品において、最後にお金やモノで解決する作品は見当たらない。高校演劇はたとえ無様であっても「人と人のつながり」に希望を見いたし、「金目」は決して登場しません。高校生の視点を入れると今の福島においてさえ、「最後は人と人のつながり」のようです。

（福島県高等学校演劇連盟事務局長）

富山県

「富山の現場より」

松嶋ちどり

富山県の事務局の仕事をさせていただき、2年目となりました。現在、加盟校は22校、県下の部員数は、325名です。

富山県には、ほぼ真ん中辺りに呉羽山（くれはやま）という山が有り、県を二分して、それより東の地域を呉東（ごとう）、西の地域を呉西（ごせい）と呼んでいます。某TV局の「ケンミンショー」で放映された「富山県」は、呉東の情報で構成されていたため、呉西の人にはほとんどが「？」な内容だったようです。どうも、この呉羽山を境にして、東は関東風の文化、西は関西風の文化になっているらしいです。筆者は呉西の者ですが、方言もちょっと金沢風ですし、高校時代には、恩師が授業中に「呉羽山の向こう側には野蛮人が住んでいる（カール・ブッセの詩のパロディーらしい（笑））」と言って、呉東にあるT山C部高校への敵愾心をあらわにしていたものでした（C部高校の皆さん、呉東の皆さん、ごめんなさい）。

毎年、呉西地区（高岡・砺波地区）の大会は8月に有り、呉東地区（新川・富山地区）の大会は9月に行われます。例年それぞれの地区で代表校4校ずつが選ばれ、11月初めの県大会で8校が上演し、うち2校が12月に行われる中部大会への出場権を得ることになっています。

一昨年の県大会では、創作脚本が3本、既成の作品が5本上演されました。昨年は、既成が3本で創作脚本が5本となりましたが、うち1本は落語を脚色したものでしたので、ベースになる物語は既にあります。ひと頃に比べると、近年は地区大会においても、既成の作品が上演される機会が増えました。これを嘆く向きも有ると思われますが、創作脚本での上演にこだわるあまり、完成度の低い、物語として破綻している、あるいは退屈と言つていい劇を観せられるくらいなら、お客様の立場に立ってみれば、面白い既成脚本の劇を観るほうがいいに決まっています。そこは「高校生のしていることだから」といって「ガマンして観てくれ」と言うわけにはいきません。お客様の貴重な時間をいたでいているわけですから。ホンの書ける生徒なり顧問なりがいらっしゃるなら、創作されたらそれは素晴らしいと思います。でも、そうでないときも、やりたいと思える芝居を見つけて演ればいいのだと思います。

ひと昔前、大会で生徒が審査員に「あなたたちはこの劇で何を伝えたいの？」と訊かれる、という場面をよく目にしました。この問い合わせに対しては、「劇で」ではなく「劇を」したいんだ。芝居が好きなんだ。演じることが好きなんだ！という答えが有つていいと思います。実際に、私が部活動の現場で出会ったのは、そのような演じることが好きな子供たちでした。ストレートにメッセージを伝える作品も有れば、「ほんわかした何か」をお客さんにそっと手渡しするような作品も有る。観終わった後、いや～な後味を残す不条理劇も有る。ちょんまげの時代劇も有れば、近未来を舞台にした劇も有る。みんなちがってみんないい。今年も熱い夏がやってきます。全国大会、地区大会、県大会、中部大会が本当に楽しみです。

さて、一昨年、全国大会のお世話をさせていただく中で、上演校の皆さんのハイレベルな作品から大きな感動と刺激をいただき、改めて演劇の素晴らしさを知って、日々の活動への意欲も向上した富山県勢ですが、全国大会は終わり、当分の間 中部大会の開催もありません。県内の演劇部は部員数1桁のところが多く、部の存続が一番の課題です。今後 ワークショップ等の意欲向上に繋がる新たな刺激を仕掛け、県内の高校演劇を盛り上げていきたいと思っています。

（富山県高等学校演劇研究協議会事務局長）

和歌山県

「高校演劇に思うこと」

津村 光男

「演劇創造」への執筆依頼がきたとき、大変おどろきました。同時に、通算4年程度しか高校演劇に関わっていない私は、執筆にふさわしくないとも思いました。しかし、永く関わってもらっている先生にお願いするのも心苦しいし、教師生活だけは永いので演劇との関わりと期待することについて書かせて頂くことにしました。

1948年に結成された和歌山県高等学校演劇連盟（略称・「和高演」）は、現在県下の12校が加盟し、紀北支部（8校）と紀南支部（4校）の2つの支部に分かれ、独自の活動も

行っています。

人と高校演劇との出会いは、「戦後50年」の年、1995年のことだったと思います。この年、平和への願いを込めてさまざまな取り組みが県下各地で開催され、紀南支部内の田辺市では、憲兵として中国で残虐な行為に関わった白浜町在住の人の経験を構成詩劇にし、地域の高校生が演じるという取り組みも行われました。全体の取り組みに関わっていた私は、企画段階では失礼ながら、「たかが高校生の演劇に大変なお金がかかるものだな」としか思っていませんでした。しかし、上演後多くの地域住民に感動を与え、その反響の大きさに驚くとともに、高校生の訴える力の強さに感心しました。そのときの中心的な指導者が、水本雄三先生でした。先生は和歌山県の高校演劇に、大きな影響を与えた優れた指導者のひとりでした。

そんなすばらしい高校演劇との出会いがあった2年後に、水本先生が勤務する熊野高校に私も転勤し、水本先生が転出した後、3年間熊野高校演劇部顧問の一人として関わらせて頂きました。そして、その関わりの中で、演劇が持つ「教育力」を実感しました。一つの作品を集団で仕上げていく過程は、社会に目を向させ、表現力やコミュニケーション能力も高め、生徒たちの人間形成に大きな影響を与えると思います。一人の部員にとって、わずか三年間の演劇との関わりですが、人間として大きく成長していく過程を見せてもらえました。

それから、10年。現任校の南部高校に転勤していましたが、前顧問の突然の転勤で、わずか3年の経験しかない私に、「和高演」の事務局長として演劇部顧問が回ってきました。そこで10年ぶりに再会した演劇部員たちは、挨拶や返事が元気よくできる以前と同じ高校生でした。また、年3回行われる総会の主人公は、形式的になってはいるものの、顧問ではなく生徒たちでした。そして、何よりも演劇を通して学び、成長している高校生の姿がありました。どのクラブ活動を通して、成長する生徒の姿は見えますが、さまざまな課題を抱えている生徒は、クラブ活動を続けていくケースが多い中で、演劇部はその課題をクラブ活動を通して克服していっているケースが多いように思います。ただ一つ残念なのは、顧問の継続性と加盟校（演劇部）の減少があります。転勤先に演劇部がなく、今は高校演劇から離れている先生が多くいるように思います。その解決方の一つとして、他のクラブにもある「外部コーチ」を招くことを、各校顧問任せではなく、支部や県レベルで検討していく必要があるのではないかと思います。

しかし、また若い顧問も力をつけているように思います。私は、今年度限りで、高校教育の現場から去っていきますが、これからも高校演劇が若者を育てていってくれることを期待し、陰ながら応援もしていきたいと思います。
(和歌山県高等学校演劇連盟前事務局長)

香川県
——
香川県の高校演劇自慢
新谷 政徳

香川県は狭いです。日本一狭い県です。ついでに言うと、人口が100万人を割り込み、「人口減少なう」です。高文連加盟校は48校。うち演劇部会加盟校は13校。スケールメリットはほぼありません。さらについてに言うと、県教委からの委託料も年々減っており、「財源困窮なう」です。そんな香川県。しかし、だからこそ香川県の高校演劇自慢をしましょう。

1. お金がないからこそ！

部会主催の様々な大会やWSですが、財源が厳しい昨今。会場となるホールや運営している財団との共催という形をとり、財源的支援を得ながらこれらの事業を行っています。

例えば香川県大会。会場は、2011年の全国大会（福島・香川大会）の会場にもなった綾歌総合文化会館アリエックスですが、2009年より運営している公益財団法人丸亀市福祉事業団文化事業部との共催によって県大会は行っています。会場使用料を大幅に減免していただき、演劇部員にとっての最大目標である県大会を充実した舞台環境の下で行うことができています。

また、毎年6月に四国学院大学ノトススタジオで開催している作品研究会。4月に入部した1年生にとっての高校演劇デビューとなる発表会ですが、音響・照明などできるだけ充実した舞台環境の下でデビューさせてあげたいと考え、四国学院大学と高大教育連携協定を締結し、スタジオの使用料を免除していただいているほか、同大学演劇コースの学生さんたちがスタッフとして多く参加してくれています。この中には香川の高校演劇部員だった学生さんも多く、演劇を続けていく場ができるという意味においても、大変意義深いものだと思っています。

できるだけ生徒たちに充実した環境の中で上演やWSをしたいというのは私たちに共通する願い。その願いに力を貸してくれる方々が多い。これが香川の高校演劇自慢1つ目です。

2. 狹いからこそ！加盟校が少ないからこそ！

日本一狭く、加盟校がそんなに多くないということは、大会やWSなどにみんなが集まりやすいとも言えます。例えば、地区大会ではなく、コンクールはいきなり県大会です。そのことによる作品の質という課題はあります。秋の県大会や先述の作品研究会にはほぼ全ての加盟校が集まり、上演をし、交流しています。四国高演協主催で7月に愛媛県四国中央市で開催している四国高等学校演劇祭には、部会でバスを借り上げてみんなで観劇に出かけます。ノトススタジオで行われる青年団などの公演の客席には、いつも多くの演劇部員たちの姿が見られます。8月に実施する平田オリザ氏のWSにも100名以上（県内の演劇部員の8割！）が参加します。

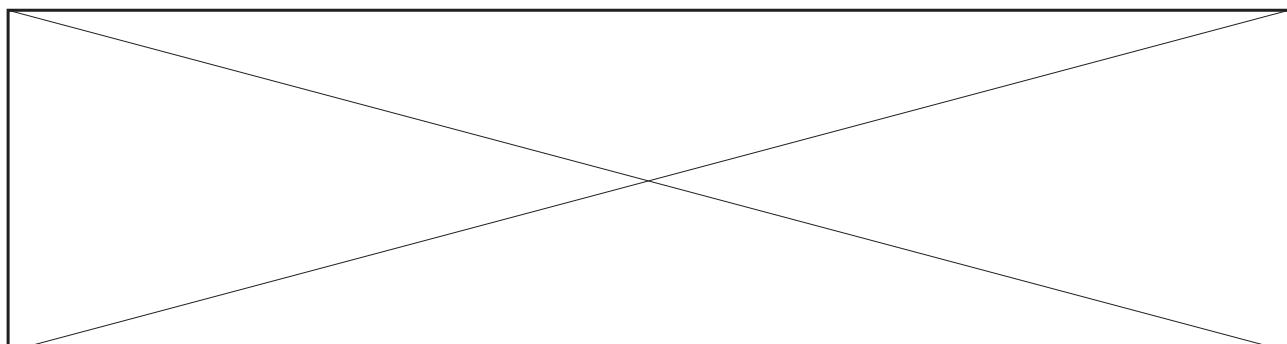
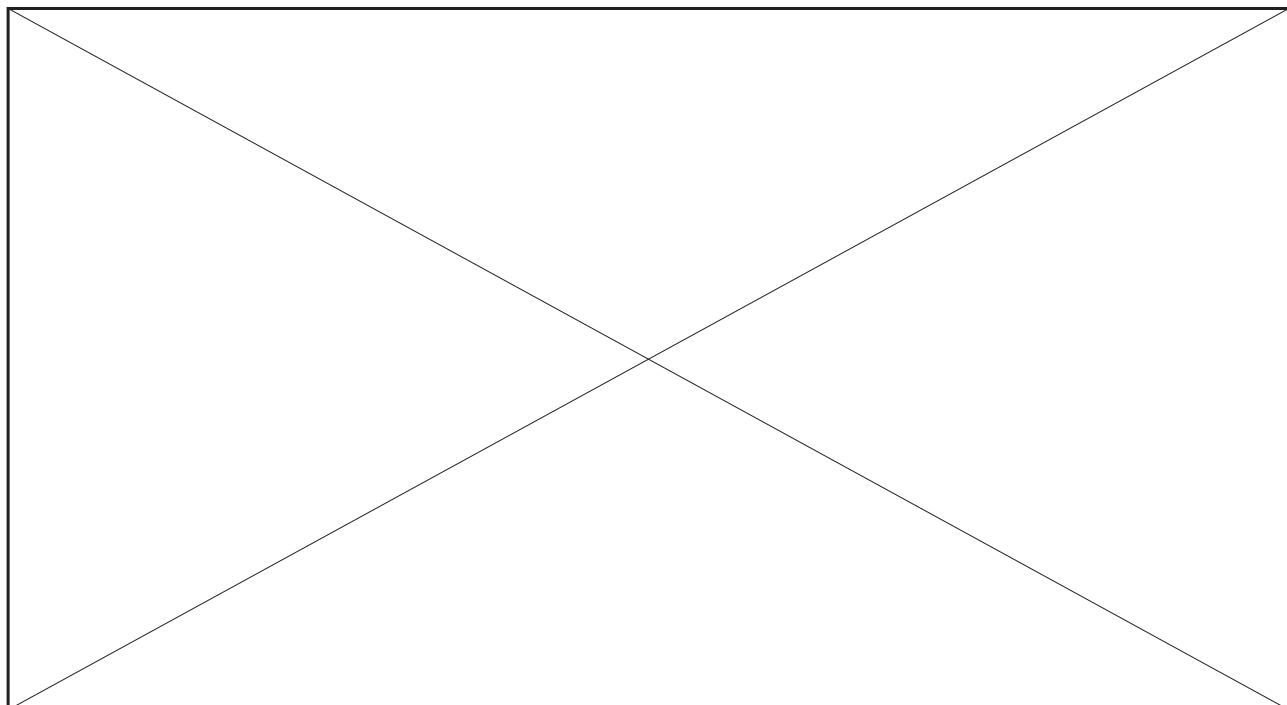
狭いからこそ、加盟校が少ないからこそ、小回りがききます。皆が集まる機会が多いので、演劇部員同士がとっても仲良し。これが香川の高校演劇自慢その2です。

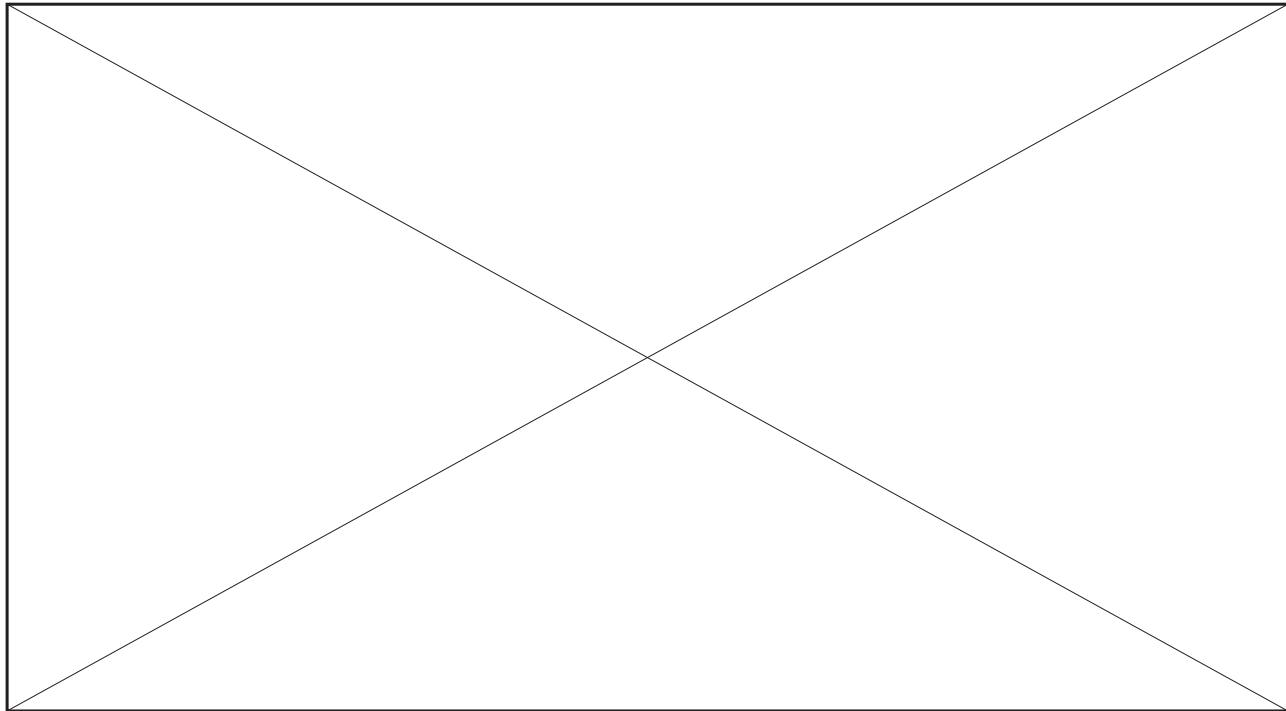
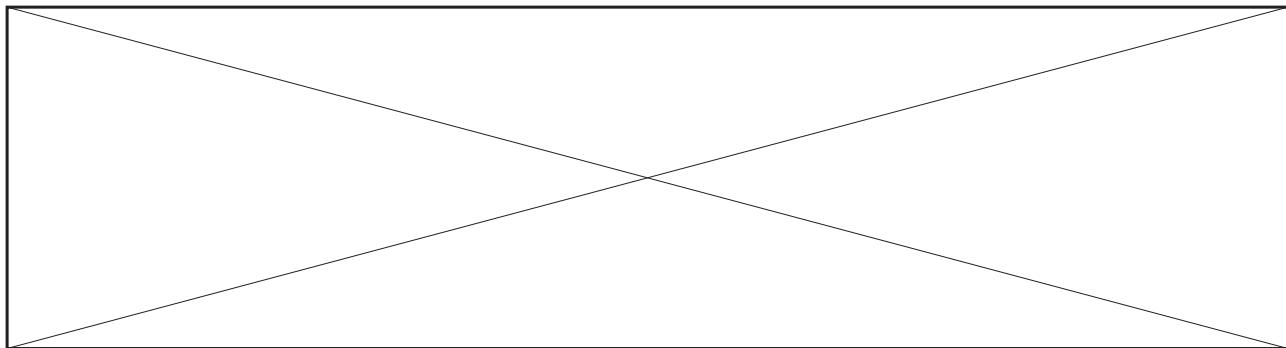
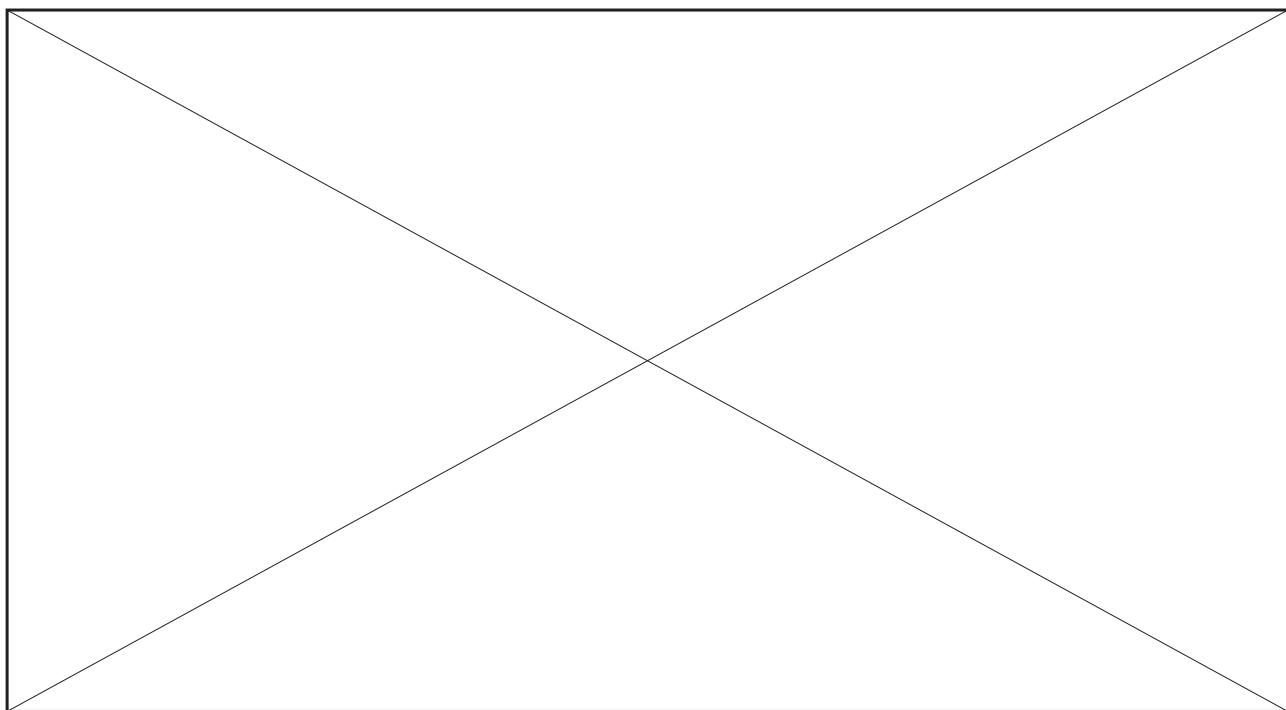
3. 来年3月はぜひ春フェスへ！

そんな香川県で2015年3月、第9回の春フェスを開催します。会場は、JR高松駅から徒歩1分のサンポートホール高松。自慢その1より…高松市との共催事業として実施するため、財政面でバックアップをいただいている。自慢その2より…狭い香川県。顧問・演劇部員集まれる人はみんなやってきます。ついでに言うと、狭い四国です。四国各県からも応援の顧問の先生方がやってきます（はず）。

サンポートホール高松の座席数は1500！ 飛行機でもJRでも高速道路でもバスでも、どんな交通手段を使っても便利なところに会場はあります。皆さん、ぜひ来年3月は春フェスにお越しください！

（香川県高等学校文化連盟演劇専門部長）





事務局通信

桜の花が咲きそろう4月、茨城大会の会場となるひたちなか市文化会館で、今年度第1回常任理事会、理事会が行われました。はじめに、今年度の事務局体制、第59回長崎大会の総括、第60回全国大会の出場校、審査員ならびに大会の概要の説明がありました。

また、平行して行われた出場校打合会において、別表のとおり上演順が決まりました。

平成25年度決算及び平成26年度予算につきましては、一昨年度より継続的に協議している協議会会費値上げとともに関わってくるため、収支バランス及び協賛団体、助成金などの要素を含めた報告、協議となりました。

協賛団体については、長年にわたり本協議会の運営を資金面のみならず多方面にわたりサポートしていただいている片柳学園（東京工科大学・日本工学院）に「特別協賛団体」として、感謝の意を表するとともに、今後ともご支援、ご協力をお願いすることといたしました。なお、この件につきましては、5月下旬に日本工学院専門学校において、関係者と文書の取り交わしをさせていただいておりますので、ご報告いたします。また、新たに多摩美術大学を協賛団体と

させていただきます。

会費値上げの件につきましては、こうした協賛団体からの収入以外に、独自会計で十分な協議会運営をしていくための方策として提案させていただきます。原案は従来の1,000円を1,500円にするというもので、事務局の運営体制を見直し、今まで以上に経費の適正な支出を図ることも条件としています。各都道府県で協議いただいている中で、全体としてはやむを得ないという意見が多いところですが、一方で値上げ幅、支出状況などについての意見も出されており、さらに8月の理事会で協議を進めたいところです。

また、規約細則に係るコーチの大会参加の問題についても、前年度在籍顧問教員の参加の扱いについては概ね了解を得られたと判断しますが、コーチについては各地区大会での扱いの差、ブロック大会での状況などが意見として出されました。全体としては認めていないケースが多いようですが、関与の線引きの難しさも指摘されており、さらに議論の余地があります。

今大会は全国大会60周年の節目にあたり、多くの方のご来場をお待ちしております。夏のひたちなかで元気にお会いいたしましょう。

（事務局 三上 実）

■■■■■ 平成26年度 全国高等学校演劇協議会加盟校数一覧 ■■■■■

地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数
東 北 (211)	北海道	105	中部日本 (265)	富 山	21	四 国 (67)	香 川	14
	青 森	32		石 川	22		高 知	18
	秋 田	26		福 井	16		徳 島	16
	山 形	29		愛 知	134		愛 媛	19
	岩 手	31		岐 阜	44		福 岡	64
	宮 城	45		三 重	28		佐 賀	11
	福 島	48		和 歌 山	12		長 崎	24
関 東 (882)	茨 城	60	近 畿 (266)	京 都	31	九 州 (205)	熊 本	31
	栃 木	40		奈 良	21		大 分	11
	群 馬	41		大 阪	100		宮 崎	18
	千 葉	109		兵 庫	81		鹿 児 島	31
	埼 玉	115		滋 賀	21		沖 縄	15
	東 京	221		鳥 取	19			
	神 奈 川	122		島 根	13			
	静 岡	46	中 国 (149)	岡 山	49			
	山 梨	22		広 島	43			
	新 潟	48		山 口	25			
	長 野	58						
								合計 2150

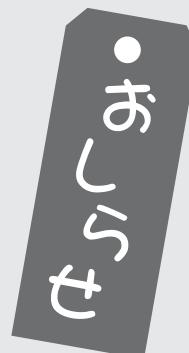
優秀校東京公演について

優秀校東京公演は、8月30日(土)・31日(日)に国立劇場(東京都千代田区)で開催されます。

全国大会で推薦された4校の上演の他に、東京都から特別上演が1校、演劇以外にも、日本音楽と伝統芸能の発表が行われます。入場に際しては、開催日ごとに入場引換券が必要です。

——観覧ご希望の方は——

- ★ 観覧希望日を明記。1申込みにつき両日合わせて6枚まで申込可。
 - ★ 返信用封筒を同封。
※82円切手を貼り、返信先を明記。
 - ★ 8月13日(水)必着〆切で、下記までお申し込みください。
先着順に整理券を送付いたします。(予定枚数に達したら締め切ります)
- 〒131-0043 東京都墨田区立花4-29-7
東京都立橘高等学校内 優秀校東京公演 申込受付係
宮下 克士 宛

**NHK Eテレ放映について**

今年度も、第60回全国高等学校演劇大会・同指導者講習会に撮影スタッフが取材に来てくださいり、国立劇場の優秀校東京公演を撮影したものと現地での取材をもとに2時間番組として、9月末に放映予定です。時間の関係で放映できる作品が一本になってしまったことについては、今後も複数の放映についてお願いを続けていきます。ぜひ、番組をご覧いただき、感想をNHK宛にお寄せ下さい。

